

# 山梨を襲った「想定外」の大雪

## ハウス倒壊の被害に立ち向かう 農業経営者の決意

(株)サラダボウル代表取締役

田中進

山梨県中央市



2月8日、14日の大雪により関東・甲信・南東北地域で、ハウスや倉庫、作物などに甚大な被害が発生しました。被害に合われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

なかでも観測史上最高の114cmを超える積雪を記録したのは山梨県でした。ハウスが倒壊する被害に合われた同県中央市の田中進氏(株)サラダボウル代表取締役)が力強いコメントをFacebookに掲載されました。ご本人の承諾を得て原文のまま転載いたします。各地の一日も早い復興をお祈りします。(編集部)

みなさま、この度は本当にありがとうございました。お陰様で色々な問題も解決のめどが立ち、ひと段落つきました。刻々と深刻さを増していききましたが、何とか乗り切れそうです。様々なご支援や励ましに心より感謝申し上げます。

数日前まで、「自然の前では無力だなあ」「農業はやっぱ自然リスクと隣り合わせだなあ」なんて考えていました。しかし、時間が経ち、落ち着いて振り返ることができるよう、今回のサラダボウルのハウスの倒壊は決して自然災害などではなく、未熟な経営者が招いた人災だったという結論に至っています。(あくまでサラダボウルのことであり、

決して他の農家のことを含めていた訳ではありませんので……)

確かに地域のハウスは半分以上が倒壊しました。果樹産地では80%以上倒壊しました。山梨県全域で174ha以上のハウスが倒壊したとも言われており、今後その数は増えていくでしょう。信じられないほどの数字です。

そのような状況の中、「今回の雪では仕方ないよね」「みんなダメだったんだから避けようがなかったんだよ」という周囲の認識に私自身も同調していました。

しかし、同じスベックのハウスを倒壊させずに守り抜いた生産者がいました。私たちよりも、はるかにスベックの劣る弱いハウスを守り抜いた篤農家がありました。周りのほぼすべてのハウスが倒壊する中、ただ一社だけハウスを守り抜いた果樹生産法人がありました。その事実を前に、経営者としての未熟さに気づかされたのです。

一番目の生産者は、私の兄です。一晩中、家に帰ることなく懸命に対策を講じ、誰もやらない様までできるすべての手段をやり切り、ひとりでハウスを守り抜き、家族を守りました。

二番目は隣の70歳近い篤農家です。真つ先に潰れてしまうような弱

いパイプハウスを見事に守り抜きました。氏いわく、「みんな、この雪じゃあどうにもならんちゅうけんど、これを見てみるし。ちゃんと建ってるらに。俺りゃあ、一睡もしちゃあいんよ。夜中じゅう、何回も何回も雪をかいてまわったぞ。ほうすりゃあ、ハウスなんか簡単につぶれんだぞお」と。

自分自身が恥ずかしくなりました。自然災害によって被害を受けていた訳ではなかったんです。経営者としての至らなさが招いた人災だったんです。十分な備えやもっと早い危険察知、いざ起こった時のリスク管理ができていれば、もっともって被害を減らせたはずです。

前週的雪をもっと適切に処置していれば……。今回は前回の半分くらいだという報道に気が緩んでいなければ……。「潰れても仕方ないハウスだし」なんていう心に逃げがなければ……。今回もなんとかなるよ。きつと大丈夫だ。なんて謙虚さにかけていなければ……。もっと最悪の事態を想定していたならば……。もっと早くから温度を上げるように指示していれば……。もっと早くから雪かきをし、さらにその後の事態に備えるように指示できていれば……。もっと具体的な行動マニュアルを作成できていれば……。降雪時の

役割分担表を作成していれば……。降雪時の優先順位（緊急度、重要度）指標を作っていれば……。

できることは、いくらでもありません。それをすることができない経営者がいただけでいいです。

「決して社員に危険を顧みず必死でハウスを守り抜け！」と言うことではなく、会社が、経営者が、もっときちんと備え、対処できていたならば……。今回の被害は農業だから仕方ない」で片づけてはいけません。感じています。農業特有の事象ではあるでしょうが、どの産業にも同様に特有のリスクはあり、それに向かいあい、解決しています。「農業だから、しかたない」と逃げていた自分自身に対し、とても残念です。そして、「もし、今回の大雪においてもハウスを守り抜くことができ



雪の重みで押しつぶされたハウス郡



大型のハウスも倒壊した

ていたならば、社員たちは将来に向けて、どれほどの勇氣と自信を得ることができたろうか」なんてことも考えます。会社や経営者の未熟さによって、彼らの成長機会を奪ってしまい、申し訳ない思いです。

しかし、反対に農業のさらなる可能性も感じています。今回の経験を通じ、これほどの自然条件においても、農業がまだまだできることがあることも改めて確認できました。ハウスが倒壊した当初は、「設備投資が掛かっても、もっと頑丈な設計にしなければいけなかった」と思いましたが、まだまだ解決する手段があったのです。

もう一度農業の常識を疑い、イノベーションが起こせるように本気で取り組んでいこうと思います。「農業の新しいカタチ」を一段深く探り、

農業の可能性を考え直してみたいと思います。

これを機会に、今まで整理できなかったことを整理したいと思っています。「やるべきこと」と「やってはいけないこと」の決断をしたいと思いま

す。こんな時だからこそ、50年後、100年後のサラダボウルとこの地域のあり方を想いながら、ドラステックに変化したいと思っています。そして、改めて、もっともっと上のステージにチャレンジしていきたいと思っています。

昨日、妻と娘二人を連れ、サラダボウルのハウスが半分以上倒壊した現状を見せてきました。その光景は、子どもたちには「サラダボウルが」というよりも、地域全体が倒壊してしまったように映ったようで、大変な事態であることを実感したようです。これから彼女たちは、「思うようにならないこと」よりも「思うようにならないこと」の方がはるかに多い日々を送ることでしょう。たとえばんな事に直面しても、日常を楽しんだり、仕事でワクワクしたり、社会に出ることを楽しみにする気持ちを忘れないでほしいなあ……。なんて思います。

サラダボウルも普通に、これまで良いことも悪いことも経験してきましたが、今回の事態も同様に、目の前に広がる事実を受け入れ、自分たちができることに最善を尽くすしかありません。過剰にネガティブになることもなければ、変にポジティブになることもなく、ただただ自然体で、いつも通りに粛々と取り組んで

いくだけです。サラダボウルのみんなの姿を通してそんなことを伝えられたらいいなと思っています。

それは多分、私が小さい頃に見ていた父と母の姿そのものだと思います。どんな最悪の事態にも、父と母がそうしていたように……。何も特別なことができる訳でもないけれど、日々のみんなの姿が次の時代の姿につながっていくのであれば、きっと胸を張って自慢できるカッコいい地域になっている気がします。

最後に……。東日本大震災に比べれば、災害と言うには遠く及ばないけれど、それでも、今、改めて気づいたことがあります。それは、この1年間、震災で被災された東北の生産者のみなさまと深くかわる機会を頂いた中で、そのみなさんの姿勢や取組から、私自身がたくさんのことを学ばせて頂いていたんだということ。今回の被害においても、みなさんと過ごしてきた時間や経験が大きな支えになり、大きな励みになりました。この場を借りて、お礼を申し上げます。

「本当にありがとうございます」

（2月25日投稿）